

近現代日本 150 年の労働者・民衆の闘いの歴史

第一章 ペリー来航から第一次大戦終了まで

第二章 第一次大戦後恐慌～世界大恐慌まで

Report & Talk まとめ(2018年2月～11月)

○2月25日(日)プチ労89「歴史」第I期1前半—レポーターなおこさん

○3月25日(日)プチ労90「歴史」第I期1後半—レポーターなおこさん

<1920年代>

*4月14日(土)シネマ共謀第八回「密偵」(1919年～朝鮮「義烈団」の戦い)

○4月29日(日)プチ労91「歴史」第I期2前半—レポーターごうさん

*5月12日(土)シネマ共謀第九回「拝啓天皇陛下様」(1963年公開：渥美清喜劇)

○5月27日(日)プチ労92「歴史」第I期2前半—レポーターごうさん

*6月9日(土)シネマ共謀第十回「ニッポンの嘘—福島菊次郎」(2012年)

○6月24日(日)プチ労93「歴史」第I期2(2)—レポーターごうさん

*7月14日(土)シネマ共謀第十一回「GO」(疾走する在日青年の青春：2001年)

○7月29日(日)プチ労94「歴史」第I期2(3)—レポーターごうさん

*8月11日(土)シネマ共謀第十二回「サンダカン8番娼館—望郷」(1974年)

○8月26日(日)プチ労95「歴史」第I期2(3)—レポーターごうさん

*9月8日(土)シネマ共謀第十三回「太陽のない街」(1926年共同印刷争議：1954年)

○9月30日(日)～史上最悪強風台風の直撃で中止～

*10月13日(土)シネマ共謀第十四回「チェ 28歳の革命」(2008年)

○10月28日(日)プチ労96「歴史」第I期2後半—レポーターむぎたさん

*11月10日(土)シネマ共謀第十五回「モーターサイクルダイアリーズ」(2004年)

○11月25日(日)プチ労97「歴史」第I期2後半—レポーターむぎたさん

*12月8日(土)シネマ共謀第十六回「タクシー運転手」(2017年)

<2018-2-25 プチ労 89 まとめ>

参加者：7人 中高年：青年＝4：3 地域：それ以外＝5：2

メニュー：恒例春のちらし寿司（焼き鮭、穴子かば焼き、蓮根、人参、どんこ、錦糸卵、海苔）、菜花の辛し和え

◎「近現代日本 150 年の労働者・民衆の闘いの歴史」第一回「ペリー来航から日清戦争まで」（「草稿」I の 1 の（1）～（3）レポーターなおこさん）

まとめ：

○レポーター説明

・ペリーの琉球征服計画：1853年7月浦賀に来航する前、ペリーは4月に琉球に来航。日本の開国で琉球征服計画は実現しなかったが、この時から、アメリカは沖縄を「太平洋の要石（Keystone of Pacific Ocean、これは映画「沖縄」にも出てきたが、戦後沖縄占領時期の米軍車両のナンバープレートの表記）と考えていた。

・明治維新は「武士と豪商のクーデター」。動力は農民・町人なのに裏切った。：江戸末期から年貢と御用金に苦しめられた農民・町人は、「この幕府もう無理！」と津波のような一揆・打ちこわしを続け、武士と豪商の「年貢半分にする」という討幕の動力になった。

しかし、裏切られた。明治政府は、1873年地租改正で年貢は減らず、共有だった山林を取り上げ、実質農民だけ徴兵、学校教育費も徴収。明治初年1872年9月の宮崎「農民の赤旗一揆」、1876年12月伊勢暴動など、「年貢半分ウソだろう」一揆、自由民権運動と結びついた地租改正反対・徴兵令反対運動が続き、「唯一の組織された武装蜂起“革命本部”」というコミューンを打ち立てた秩父困民党蜂起に結実する。

・これを抑えるために「日本国3点セット」の“発明”と朝鮮侵略開始：伊藤博文らは、天皇の統治は「歴史の事実」とした「国体」と日本は「島国」で沖縄も朝鮮もその防波堤でしかない、日本は「農業と米—瑞穂の国」で米が足りないなら（足りないことはないのに）侵略もしかたない、など「3点セット」を発明。

そして、欧米に日本が結ばされた「不平等条約」を回復し「一等国になるため必要条件」だとして、1875年から朝鮮侵略を開始し「欧米のまねっこごさる」で朝鮮と「不平等条約」を結ぶ。1894年日清戦争もその延長でしかない。

・闘い続ける朝鮮民衆：日本の侵略に対して、1882年には、朝鮮兵士と民衆の壬生（イモ）軍乱がおこり、日清戦争の時にはその原因でもあり結果でもある、甲午（カボ）農民戦争が大規模におきる。日本は40万人もの朝鮮民衆を虐殺したが、一時期、朝鮮の1/4にもなる地域でコミューンも打ち立てた経験は、朝鮮民衆運動の金字塔として、その後の労働運動・農民運動に引き継がれる。

・当時、日本の農民と朝鮮民衆は連帯できなかったが、今は動労千葉とともに私たちは韓国民主労総と連帯している。

○補足—ごう：

・「欧米帝国主義に追いつくために、日本の農民の収奪も朝鮮侵略もしかたなかった」ので

はない！：上記を踏まえて、「草稿」のはじめの題名を明治維新ではなく「朝鮮（チョン）で始まる日本の近代」とした。今も「北朝鮮の脅威」であり、その意味でも、日本の民衆の歴史は朝鮮民衆の歴史でもあると思った。

一般に「悪辣な欧米帝国主義の植民地に日本がならないためにしかたなかった」という論調があるが、そんなことはない。

伊藤博文は、明治維新は農民・町人の力でできたのにもかかわらず「日本では、皇室を機軸にしなければ憲法政治はできない。決して民衆の蒙議に任せるわけにはいかない」と言って明治憲法を制定した。しかし、日本の困民党コミューン、朝鮮の甲午(カポ)農民コミューンを見れば、もう少しの連帯で、「民衆の政府」はできた。

・「ペリーのお土産から始まる日本資本主義の終焉を示すのが福島原発事故」：ペリーの幕府献上品は、蒸気機関車模型と電信装置。それは、動力・電力という欧米資本主義が創り出した「エネルギー革命」の成果の実用品。そこから、日本は「欧米資本主義のまねっこごころ」で、敗戦の一時期を除けば、一貫して経済成長とエネルギー消費を拡大し続けてきたが、2011年福島原発事故がその終わりを告げた。

○天皇、国体の議論がにぎやか

Sk：「日本国3点セットの発明」っていうのがすごい！

Go：それ自体は、江戸時代から言われていた。伊藤博文も末席で受講し、アベも大好きな「松下村塾」の吉田松陰は、3点セットに加えて「朝鮮侵略」も言っていたらしい。それを明治憲法など制度にむりやしでっちあげたことを「発明」とした。

あと、3点セットの「島国」に対していえば、網野さんの本の「さかさま地図」を見ると、日本海がもともと内海であったこと、その意味で、日本列島は、アジア大陸の北と南を結ぶ懸け橋だと捉えられる。

Sk：以前読んだ漫画「おーい竜馬」などのイメージが強かったけど、竜馬にしても、福沢諭吉にしても、“資本家”なんだな。

Yk：江戸時代の庶民にとって天皇なんて関係なかったと思う。「大日本帝国」というその「日本」っていう言い方も、聖徳太子が中国、朝鮮を謙譲する意味で使い始めたらしい。

Mg：元号を使っているのは、今では、先進国では日本だけだし、江戸時代までも使っていなかった。

Mk：「国体」ってホントよくわからないが、日本の天皇は、欧米の王とちがって、絶対的な権力をもったこともなく、いつも使われている気がする。

Go：日本では、14世紀前半、3年だけ、後醍醐天皇っていうのが、「建武の中興」といって欧米並みの絶対権力をめざしたらしいが、その後、南北朝の動乱が続き、天皇の権威は衰退していったらしい。しかし、それを明治政府以降、「開闢（かいびやく）以来の事実」として天皇統治の“根拠”にしたらしい。

Yk：そもそも、天皇は関西近辺を支配していただけ。

Yi：歴史、面白い！

<2018-3-25 プチ労 90 まとめ>

参加者：7人 中高年：青年＝4：3 地域：それ以外＝5：2

メニュー：インドチキンカレー、ザブジ2種（じゃがいものペパーミント風味、いんげんとなすのココナツミルク煮）、きゅうりと大根のサラダ

◎「近現代日本 150 年の労働者・民衆の闘いの歴史」第二回「日露戦争から 1919 年 3.1 朝鮮独立運動まで」（「草稿」I の 1 の（4）：レポーターなおこさん）

<まとめ>

本日は、「改ざんアッキード疑獄」のなか、改憲議案のための自民党大会@品川抗議行動、改憲阻止大行進銀座デモなど参加した後のプチ労。いつもより多かった右翼の妨害、それにも関わらず良かった沿道の反応、特に手作り「デコヘル」が注目された銀座デモ終盤、初老の男性が駆け寄ってリクエストした自作のコール「出てこい出てこいアッキード！出ていけ出ていけ安倍晋三！」をコラボコールしたことなど踏まえて、議論も盛り上がった。

○日露戦争以降、国際連帯した労働者・民衆の闘い

・レポーターが「労働者・民衆の闘いは、歴史上、実際に国際的に刺激しあい関連しあって起きている」として、日露戦争「日本勝利」はロシア民衆の「第一次ロシア革命」の結果だったこと、そして、1917年10月のロシア労働者革命、それに刺激された1918年8月から1千万人が参加した「日本の革命の予兆」米騒動、それを見た朝鮮人留学生在が東京で始め200万人が参加した朝鮮の1919年、3.1独立運動、さらにそれは、同年、中国の5.4抗日運動に大きな影響を与えたことを説明。

・それから以下を補足（by ごう）。

「悪辣な欧米帝国主義の植民地に日本がならないために、日本の農民の収奪も朝鮮・中国侵略もしかたなかった」といわれるが、そんなことはない。自治を立派にやった日本の困民党コミューンを見ても、朝鮮の労働運動・農民運動の歴史的金字塔である甲午(カボ)農民コミューンを見ても、もう少しの連帯で、自主的な近代化のための“民衆の政府”は可能だった。アメリカの鼻先で“民衆の政府”をつくったキューバ革命が参考になる。（本文 I-1-(3) コラム参照）」

○日露戦争時の軍歌・軍神、「日比谷焼き討ち事件」と我々のなかの「ナショナリズム」

・アベが「アジアを元気づけた」（安倍首相「戦後70年談話」2015年8月）という日露戦争は朝鮮、中国「満州」侵略のための戦争だった。レポーターは、「親たちに刷り込まれている」として、当時つくられた「ここはお国の何百里」という軍歌「戦友」と軍神にされた乃木大将をたたえた文部省唱歌「水師營の会見」の歌詞、それから、「日本初の大衆の

ナショナリズムの出発点」ともいわれる日露戦争講和に反対した「日比谷焼き討ち事件」を紹介。

・レポーターは「焼き討ち事件などは、政府が求めた“日本が一等国になった”という意識、それと裏腹に、日本の“欧米まねっこごころ”、欧米流の“金・金”のペラペラした近代化批判、“そういう大日本帝国って何だ!”という意識の出発点でもある。いずれにしても、朝鮮侵略・民衆虐待の事実は、知らされず置き忘れられている。」

・さらに「政府は、高校生に“尖閣諸島・竹島を日本の固有の領土”だと教えるために教科を新設しようとしているが、尖閣諸島（釣魚島）・竹島（独島）ともに、日本が“日清、日露戦争の最中、韓国併合の最中で盗ったもの”。第二次大戦後の領土の原則はポツダム宣言。しかし、政府はそこから中国・朝鮮・ソ連を排除して締結したサンフランシスコ条約が原則だという。（本文 I-1-（4）コラム参照）」を補足（by ふう）。

・議論は、「今日のデモにからんできた右翼もそうだが、右翼や在特会はけっしてアメリカ悪いとはいわない。それが右翼なのか？」から始まり、「僕は白人が嫌い。道のまんなかをえらそうに歩く。中国人はスーパーでおばあさんにもやしを取ってあげたりする。」「僕もケトウきらい。ただ、実際にはいい奴と悪い奴がいる。」「私も黒人とけんかしてらちあかなくなると、黒人だからわからないと言ってしまうことがある」。我々にある「ナショナリズム」の原点が出る。

・「領土」については、「福岡にいた時、西日本新聞が“竹島は、江戸幕府の時に放棄した”と特集していた。九州は中国・朝鮮のことに詳しい。」という話があり、「尖閣諸島については、琉球の帰属の問題があるので、やはり政府は昔のことは言わない。」「高校でポツダム宣言とサンフランシスコ条約を習ったが、その違いの意味をまるでわかってなかった。」

・「侵略の事実を置き忘れたナショナリズム」については、「結局、戦争して勝つと正しいことになってしまう。」「軍歌“戦友”は、日中戦争になると歌唱禁止になるほど、厭戦歌だが、戦争が進むにつれ強まる“お国ために、天皇のために”という上からの統制に対して、戦友同士助け合って何とかしのいでいくという意味で歌い継がれていく。しかし、あいかわらず、そこには侵略への意識はない。」「原発事故も同じ。福島“侵略”。原発の問題を“絆”を持ち出してごまかす。」

・あらためて、日本の近現代史は朝鮮、中国の歴史、そして国際連帯をどうするか歴史でもある。我々が知らないそれを知ること、同時に、今ある「無関心」やアベなるもの、「天皇をいただいた国家」への「支持」をどうしていくかを考える意味でも「我々のなかにあるナショナリズム」についても同時に問い返していく機会にしたい。

以上

<2018-4-29 プチ労 91 まとめ>

参加者：7人（うち幼児1） 中高年：青年＝3：4 地域：それ以外＝4：3

メニュー：たみとや 10年！原点沖縄のタコライス&沖縄定番ナスの甘（黒糖）味噌煮

◎「近現代日本 150年の労働者・民衆の闘いの歴史」第三回「1920年第一次大戦後恐慌から1920年代前半労働運動・農民運動の高揚」（「草稿」Iの2の（1）～（2）レポーターごうさん）

<まとめ>

○第一部第一章のまとめ

欧米資本主義の「まねっこござる」明治政府は、「国体」を発明し、日清・日露戦争と朝鮮侵略で、労働者・民衆をないがしろにして何とか欧米に追い付こうとした。

あわせて、「国民」には、日露戦争講和時の日比谷焼き討ち事件などを契機に「日本は一等国」という大衆的なナショナリズムも芽生えてきた。

それに対して、朝鮮民衆は闘い続け、欧米資本主義の分捕り合戦である第一次大戦とともに起きたロシア革命を軸として、日本で”革命の予兆“米騒動・ドイツ革命・朝鮮 3.1 独立運動・中国 5.4 運動と国際的に連携した民衆の闘いが起こった。

○今日から 1920 年代—労働運動・農民運動の本格化と天皇制の変化

第一次大戦後、世界の資本主義は新たな段階に入り、それらの動きを踏まえ、日本でも、労働運動・農民運動が高揚し、国家・資本、そして天皇制が対応を迫られる。

○本日、1920年代前半のポイント三つ

1. 世界の動き—「フォーディズム」で資本は「黄金の 20 年代」、労働者は「血塗られた 20 年代」
2. 日本の労働運動・農民運動の高揚—あっちもこっちもストライキ
3. 関東大震災で朝鮮人虐殺など「ナショナリズム」の動き

本文↓

[近現代日本の労働者・民衆の歴史第一部第二章.pdf](#)

1. 世界の動き

・「フォーディズム」—T型フォード大人気でベルトコンベアー方式の大量生産が一般化し資本は絶好調。労働者の仕事は熟練工から単純労働になる。これは第二次大戦後の「生産性基準」の原点。

・このころ日本の資本主義は第一次大戦の「濡れ手に粟」で急成長して「アジアの一等国」だが、それでも世界の「3 等国」。国家・資本にとっては「欧米に追い付け」という劣等感は変わらなかった。（本文 4 ページコラム「日本資本主義の位置と第一次大戦での急成長」参照）

・絶好調資本に対して、欧米労働運動は「血塗られた 20 年代」（本文 5 ページコラム「潰えた 1923 年ドイツ革命」参照）

・そうはいつでも覚えていてほしい「歌う組合」アメリカ IWW。—おまけ：IWW の歌集「Little Red Song Book」抜粋動画（本文 7 ページコラム「資本を揺るがしたアメリカ IWW（世界産業労働者組合）の奮闘」参照）

2. 日本の労働運動・農民運動の高揚

- ・1920年代当初、欧米に比べても日本の労働運動はかつてない盛り上がりを見せる。創業 20 年にしてはじめて「溶鉱炉の火」を消した八幡製作所大争議を始め、全国「あっちもこっちもストライキ」。
- ・争議に共通していた基本テーマは、団結権だった。普段従順な労働者が一斉に立ち上がった時、彼らを感じていたのは、「自分たちがつくらなければこの世になかった団結、その労働組合」を発見した解放感だった。（本文 11 ページ）
- ・その勢いに労使協調で「社会主義とは死を賭して闘う」としていた最大の労組友愛会も日本労働総同盟になり綱領も「資本家階級の抑圧と迫害に対して徹底的に闘争する。」とあらためる。
- ・農民運動も米騒動以降、1919年には 85 件だった小作争議が 1920年 408 件、1921年 1680 件と盛り上がる。その勢いを受けて 1922年には日本農民組合が「日本の農民よ、団結せよ！然して田園に、山林に、天与の自由を呼吸せよ！」と宣言して結成。

3. 関東大震災での朝鮮人虐殺など「ナショナリズム」の動き

- ・一方、1923年の関東大震災では、翌日までに 3689 か所で自警団が組織され 6600 人もの在日朝鮮人が虐殺される。自警団に立ちはだかつて朝鮮人を守り、あるいは匿った多くの日本人もいた。違いは、朝鮮人と「普段から暮らしをともにしていた」か「話したこともない」かだった。
- ・2週間後には、憲兵大尉甘粕が社会主義者大杉栄・伊藤野枝・6歳の甥を虐殺する。甘粕の「生き甲斐は、民族の長、政治の長たる皇室、皇室の有たる日本国にすべてを空しくして尽くすこと。天皇教である。家族制度と皇室と国との関係を考えると日本はありがたい国だと思う。族長、統治の長の一致せる国は日本のみ。国家なる文字の真の意義（国と家）は、日本にしかないと言うのは当然である。」
- ・それより前の 1921年には、31歳の朝日平吾が「天皇のために悪辣な資本を倒す」と安田財閥総帥を刺殺。「天皇教ナショナリズム」も始まっていた。

○意見・感想

☆1920年代、民衆の闘い、すごい！

Sk:ストライキに立ち上がった労働者の声（本文 11 ページ）を見ても、ひとりひとりの素朴な要求で、1920年代って知らなかったけど、なんか今の原点だ。

Yk:「自分たちがつくらなければこの世になかった団結、その労働組合を発見した解放感」って爽快だ。

Mg:この20年代って、労働運動・農民運動、それから「右翼」の青年の動きを含めて、みんなが自分で「政治」を考えている。「政治」が近い。すごい。

☆「ナショナリズム」の青年達も懸命に悩み考えていた？

Nk:30年代になると、血盟団事件や5.15事件とかあるけど、彼らは、日蓮などの仏法で天皇制の内容を変えてこの国をどうにかよくしようとしていたようだ。「右翼」の青年たちも懸命に考えていた？

Yi:たしかに日蓮には社会をよくするために「闘う」がある。

Go:伊藤博文が明治憲法をつくる時、ドイツの学者に「欧州の憲法政治のベースにはキリスト教がある。日本は仏教をベースにしたらどうか？」といわれたらしい。日本では仏教を弾圧した歴史があり天皇を機軸にした。1920年代には天皇制自体が時代に適応するのかわいかいろんな意味で問われ変化する。次に見る治安維持法制定もそうだし、「満州国」もそれに絡むので、「右翼青年の葛藤」について30年代のところでもまた見たい。

☆「大正デモクラシー」「普通選挙運動」など「中間層」の動きが抜けている？

Mg:普通の歴史では触れられない労働者や農民や朝鮮民衆の動きを見るために「中間層」の動きはあまり触れない？

Go:そうでもあるけど、労働運動や天皇制などの関連のなかで、もう少し「大正デモクラシー」「普通選挙運動」自体を補足していきたい。

以上

<2018-5-27 プチ労 92 まとめ>

参加者 6人 中高年：青年＝4：2 地域：それ以外＝5：1

メニュー キーマカレー、オクラのザブジ、三里塚ラディッシュ・赤玉ねぎのピクルス、茹でスナップエンドウ

◎「近現代日本 150年の労働者・民衆の闘いの歴史」第四回（レポーターごう）

：前回「1920年代前半（第二章（1）と（2））」の補足―「大正デモクラシー」と天皇制・労働運動・中間層の動き

前回、①第一次大戦後、世界の資本主義が大量生産の新たな段階に入る、②そのなかで、欧米労働運動よりも高揚した日本の労働運動、農民運動、③一方、関東大震災での朝鮮人虐殺など「ナショナリズム」の動きもあった。という三つをやったが、「世界の国際協調、大正デモクラシーなど“中間層”の動きは？」という意見もあったので、補足。

⇒以下に添付した「プチ労 92 追加事項 PDF 版」参照

[プチ労 92 回目補足事項 PDF.pdf](#)

○Report

1. 「ほどほどの国際協調」（追加事項 1～2 頁）

- ・アメリカ主導で「国際協調」が謳われたが、欧米資本主義各国の「ほどほどに協調しながらアジア市場を食い物にしていこう」という妥協の産物だった。
- ・結果、1928年に結ばれたパリ不戦条約は、「国家間の戦争をしかけるのは犯罪」とし、日本国憲法第9条第一項「戦争放棄」の原点。しかし、この時、同時に「自衛の戦争」が言い出され、その後の戦争はすべて「自衛の名目になる。
- ・日本国憲法第9条第二項「戦力不保持」は、この流れとは独立して特別。

2. 「大正デモクラシー」の経過（追加事項 2～8 頁）

- ・「大正デモクラシー」の定義や時期は諸説あるが、主な運動、「民本主義」と「普通選挙要求」の二つの経過を見る。
- ・始まりは「民衆が初めて内閣を倒した大正政変」（追加事項 3 頁）：天皇を元老が取り巻く政治の限界だった。元老系の政党がいやいやできてくる。ちなみに、「いやいや政党ができた」のは、逆説的だが「民主主義の伝道者？」大統領制アメリカの憲法と似ている(追加事項 3 頁下段)。
- ・雰囲気は「時代閉塞」（追加事項 4 頁）：1910年石川啄木「時代閉塞の現状—青年を取り巻く空気は流動しない。青年には自己主張の要求が残っているのみ。理想を失い内向的・自滅的」。今と似ている。
- ・1916年吉野作造「民本主義」（追加事項 4 頁下）：「主権は天皇なので民主主義はとれない。天皇のもとで民衆の福利と意向を重んじるべき、が民本主義」、「天皇制の枠内での民主主義”。しかし、流行った。
- ・労働者民衆を感動させた1917年ロシア革命：労働者の感動！を伝える当時の投稿（追加事項 5 頁中段）。
- ・感動した学生、労働者・労働組合の参加で本格化する「民本主義」「普通選挙要求運動」：朝鮮・中国留学生も多く参加した“国際連帯”の学生たちの「新人会」（追加事項 6 頁上段）。「自由と自治に目覚めた労働者は選挙権を要求す」格調高い最大労組友愛会の宣言（追加事項 7 頁上段）。
- ・党利と弾圧で普選運動から離れる学生・労働者（追加事項 7 頁後半）：「それでもなお議會を信頼しますか？」（友愛会機関誌）。「資本家の暴虐と官憲の圧制にわれわれはますます団結の偉力をやしない社会改造の意志を強める」（川崎・三菱造船大争議“の力強い！敗北宣言：追加事項 7 頁下段）。
- 友愛会が闘う労組になることを現場が求めた。
- ・元老系政党主導ながら普選運動を続けた中間層：「1923年2月には芝公園から憲政会主催の10万人のデモが、立憲政友会の妨害にも関わらず、警視総監とのデモコースの事前

協議、大旗の禁止、隊列を 100 人単位にすることや自前の“民衆警察隊”の設置などにより逮捕者もなく、“非暴力で済々”と行われる。」今のデモと似ている。

- ・ 1924 年「護憲内閣」で男子の普通選挙法制定

3. 「大正デモクラシー」の評価（追加事項 8～10 頁）

- ・ 普通選挙法は治安維持法と抱き合わせだった。：吉野作造がいわく「天皇はもっと国民という“赤子”を懐に抱きとれ」というのに対して、山形系の憲政会も伊藤系の立憲政友会も「赤子（あかご）」から“アカ”を取り除いて、あらためて天皇と“赤子（せきし）”の一体化、“国体”の強化をはかる」と答えたことになる。政党が元老系でしかなく無産政党は抑え込まれ、そこに民衆はいない。

- ・ さらに、国家・資本は、1923 年関東大震災での官民連携した朝鮮人虐殺の経験も踏まえて「列強の圧迫のなかで日本は戦争と植民地なくして食っていけない」という民衆に浸透しつつあるプロパガンダで“天皇と国民の一体化”をさらに図ろうとした。1920 年代、プロパガンダの教育・ラジオ・新聞という装置も整えられた。

- ・ 吉野らは、朝鮮統治の野蛮性以上には、植民地とアジア民衆の解放を唱えず、そして、当初の学生たちにはあったこの国際連帯いいかえれば侵略・差別への問題意識が、吉野ら以上に、日本共産党が第一の闘争課題とした天皇制との闘いの上でも、労働運動、社会主義・共産主義運動に問われることになる。

- ・ 労働運動は「大正デモクラシー」に押し上げられ、後で見るように、1920 年代後半、それを越えようとしていく。

- ・ もうひとつは、「10 万人のデモ」を担った中間層をどう見るか？ 当時、いわゆる労働者が 4～5 百万人で労組員が 30 万人。それに対して、商業雇人・公務員・家事奉公人、そして増えてきた大卒サラリーマンが「学生・労働者以外の 10 万人」か（追加事項 10 頁）。今後、普通選挙開始後の「2 大政党政治」のなかであらためて見たい。

4. とりあえずのまとめ

日本の民衆は普通選挙を勝ち取った。しかし、天皇制の枠内だった。支配層は一層、植民地と戦争を前提にした「天皇と国民の一体化」をすすめようとする。1920 年代は民衆とのせめぎあいだった。

これをつきやぶるのは、ひとつは、今もそこにある朝鮮・アジア民衆差別と真逆の“国際連帯”か。

もうひとつは、今も「セクハラ」がそこにあるが、女性との連帯か。

後で見るように、1910 年代にイギリスの「サフラジェット（武闘派女性参政権運動）」は労働運動と連携して選挙権をかちとった。日本では 1920 年、市川房枝らが女性参政権運動始めたが労働運動との連帯なく？敗戦後まで実現しない。

○Talk

—「大正デモクラシー」に見えた民衆・労働運動のエネルギーと立ちはだかる「差別の天皇制」

Yk：「天皇制の枠内だった」が、今は、「天皇ペット論」もある。「天皇を維持するのに金はかかるが、戦争をしないためには、それぐらいの余裕がないとダメ」という。

Go：それもひとつの見方。しかし、歴史をみると「本来、日本人が戦争好き」なのかどうか？ 明治になって天皇を「機軸」にして以来、ずっと戦争をしたんじゃないか。

Mk：天皇はどうして「定着」したんだろう？ 自分的にはほとんど天皇を意識したことがない。

Go：プロパガンダ、刷り込みが確かにあった。しかし、天皇制打倒を掲げた日本共産党幹部も1930年代前半に多くが「転向」し、天皇制のなかでの社会主義を言うものも多かった。その理由は、「民衆のなかに天皇制が浸透してしまっていることをどうしていいかわからない」ということだった。

「天皇制の浸透」は、今もそこにある「家が大事」「女性蔑視などの差別感」などみんなにある意識に支えられているのかなと思う。僕の知人でも「部落」「在日」で結婚をあきらめた奴がいる。

Nk：天皇制は、「血統」の意識をずっと育てていると思う。それが「部落」「障害者」「在日」の差別をつくっている。シベリアに抑留され「戦争反対」といいながら「朝鮮人はこわい。血が汚れている」と親が言っていた。

Go：当時「反戦、反侵略、国際連帯」という社会主義者も、その目は欧米の革命に向いていて、解放・革命に頑張る朝鮮・中国の留学生には「教えてやる」という態度がぬけなかった。

Nk：「国際連帯」といっても、関東大震災の時も「近所で生活をともにした」日本人が朝鮮人を守ったように、「隣の人と差別感なく話せる」ところから始まると思う。

Yk：自分はそういう差別感ってまったくくないんだが、一般には、10段階の1とか2あたりという人たちが、そのちょっと下、段階でいうと、0.25とか0.5とか下の人を差別する感じなのかな。

Mg：いろいろ虐げられた農民が部落や朝鮮人を差別する。

Nk：そうそう、天皇制の国家が、「四民平等」とかいいながら、華族をつくり、貴族院をつくり、徴兵は実質、農民だけにしたりして、その10段階の区分をつくっている。

Mg：それにしても、1920年代、「時代閉塞」感って今とすごく似ている。今も「希望は戦争」という若者がいる。しかし、当時、あまり権利が保障されないなかで「大正デモクラシー」、そのみんなの動きはすごい。今は、もっと自由な面あるんだから、もっとやれる。

Yk：「天皇制の枠内の民本主義」って、吉野作造は、今の産経新聞ぐらいなのかな？ 産経も都合よく天皇を使っている気がする。

Yi：いや、やはり、今の立憲民主党くらいじゃないか。

Nk：それでも、「大正デモクラシー」は、労働運動の高揚の蛇口をひねった。さらに、それを越える、突き破る労働運動を生み出したといえるのではないか。

Go：1920年代後半では、その「大正デモクラシーをつきやぶろうとする労働運動」のいくつかの事実を今後見ていきたい。

次回は、「国際連帯」にもからんで、1920年代前半、同時期の朝鮮と中国の民族解放ともからんだ労働運動、農民運動をみていきたい。

以上

<2018-6-24 プチ労 93 まとめ>

参加者：7人（初参加 Jt さん、久しぶり Mm さん） 中高年：青年=4：3 地域：それ以外=5：2

メニュー：6月恒例インドネシア風肉みそ丼、タフ・ゴレン・サンバル（厚揚げとトマトの甘辛炒め）

◎「近現代日本 150年の労働者・民衆の闘いの歴史」第五回（レポーターごう）
—1920年代前半の朝鮮・中国の民衆の闘い（第二章（2））

○地図で見た朝鮮民衆のすごい闘い

前回、1920年代前半、日本では「大正デモクラシー」が普通選挙法を勝ち取ったのを見たが治安維持法とセット。明治維新以来、朝鮮侵略で「発展」した天皇制国家日本の枠内だった。

でも、同じ時期に日本が搾り取っている朝鮮の民衆は闘い続けていた。僕も、朝鮮の地理を知らないで、「地図をひっくり返してみると、昔、大陸の半島だった日本の朝鮮侵略なんておかしいことがよくわかる」という網野さんの「さかさま地図」を使って、その闘いを見てみた。（添付：「さかさま地図と拡大版」参照）

Jt：「このさかさま地図、すごい！」

1920年代、日本の朝鮮収奪は特に米。国内の米は足りていたのに朝鮮から米を大量に奪ってきて、日本人一人一日 2.8合食っているのに朝鮮人の消費量は4割も減って1.4合になり、小作農が4割増えて8割になった。逆に、日本農民は米価低下で窮乏する矛盾だった（本文14頁「朝鮮産米増殖運動」とコラム参照）。

そのなかで、こき使われる朝鮮労働者（日給—日本人男2円：朝鮮人男1円：朝鮮人女0.5円、12-18時間労働）が立ち上がり、南の釜山（プサン）、郡山（クンサン）からソウル、仁川（インチョン）、北の平壤（ピョンヤン）半島全域で大規模スト。

農民も南の新安（シナン）郡、北の載寧（チェリョン）郡をはじめ激しく小作争議。

この際、日本資本も朝鮮の親日傀儡資本も関係なかった。

Nk：「ほんと資本って、国境なしに搾取してるんだな。」

○ロシア革命を守った中国「満州」の労働者

そもそも「満州」はどこかよくわからないので地図で見てみた。

日本列島の3倍、朝鮮半島の5倍の面積の「満州」を日露戦争以来、日本は南北に貫く南満州鉄道(満鉄)中心に、ロシアは東西に横切る中東鉄道中心に収奪を競ってきた。

Nk:「ちなみに、この満鉄の特急あかつきが新幹線のモデルなんだね？」

Go:「当時、満州は一種日本の未来みたいに勝手に思ってた？　そして1964年“復興の証”東京オリンピックの前日に突貫工事で、あかつきをモデルにした新幹線を完成した。だけど、その“未来”の満鉄と新幹線の赤字が労働者のせいになって1985年国鉄民営化。だから、国鉄労働者は闘い続けている。」

中東鉄道は、シベリア鉄道と東の玄関ウラジオストックをつなぐ“生命線”。

知らなかったが、これを伝ってロシア革命の息吹も中国で真っ先に「満州」に届いた。

ロシア革命の3か月後から1920年までに中国労働者が4回も、2日、10日間、1か月と鉄道を止める中東鉄道全線スト。ロシア革命をつぶすために、中東鉄道でシベリア出兵しようとした日本・アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・カナダ軍を止めた。(プチ労93回補足事項参照)

レーニンも、ロシア革命を守った「中国労働者階級は急速に成熟しつつあり、中国のプロレタリア革命を必ず到来させるだろう」と1923年春、死ぬ前の最後の論文に書いた。

この後見るように、実際、1920年代半ばに、「満州」労働者を先陣とした中国労働者と農民は、革命一歩手前まで行く。

Nk:「なるほど、ほんとに、労働者って国境を超えるんだなーと思った！」

Go:「そう！　逆に、日本の支配層は、満州で“アカの脅威”を肌身に染みていたのかなど。日本の学者・民衆より以上に。だから、大正デモクラシーの答えが、治安維持法とセットだった。」

(今回は、共謀罪の元祖、1925年の治安維持法をめぐって、今までの振り返りなどいろいろトーク。)

以上

<2018-7-29 プチ労94 まとめ>

参加者:5人 中高年:青年=3:2 地域:それ以外=4:1

メニュー:タイ屋台風ガパオライス、田村さんの清里高原有機ズッキーニ炒めサッピの手作りミント風味、田村さんズッキーニの梅干し・ナンプラー漬

◎「近現代日本150年の労働者・民衆の闘いの歴史」第六回(レポーターごう)

—第二章(3)治安維持法と「表」に出る天皇

○共謀罪の元祖、なんでも「双葉のうちに摘み取る」治安維持法

1925年、第一次大戦後、盛り上がった「大正デモクラシー」に押されて制定された普通選挙法（男子のみ）と抱き合わせで制定された治安維持法は、昨年、アベが強行成立させた共謀罪（公式名称「テロ等準備罪」）の元祖。

まずは治安維持法ってなにか。

7条しかない法律の第一条は、

「国体を変革し又は私有財産制度を否認することを目的として結社を組織し、又は情を知りてこれに加入したる者は、十年以下の懲役又は禁固に処す」

これを当時、政府は「第一条の“国体を変革する者”は、無政府主義者（アナキスト）のこと、“私有財産制度を否認する者”は共産主義者のこと。だから、一般の人は関係ない。」とあけすけに説明。

そもそも「国体」とは「国の形態」で天皇のことらしい。

明治憲法にもなかった「国体」という言葉は、この法律で初めて法律用語になった。

しかし、この法律のなかに「国体」という用語の定義はない。

ある意味、わかりやすいのは、この法律で人々を取り締まった実行部隊、特高（特別高等警察）の教科書の説明。

「国体とは、国家の統治権の総覧者が何人いるかで分類される国家の形態。一人なら君主国体、複数すなわち人民の代表が統治するのが民主国体。わが国体は、上御一人の典型的君主国体。これは、わが国建国以来の歴史上の事実で憲法の条文の規定ぶりによるのではないことは説明を要しない（説明がいるだろう！！）。」

しかし、これで、なんでも「双葉のうちに」取り締まった。

治安維持法の適用第一号は、1926年、学校での軍事教練に反対する学生たちだった。彼らは無政府主義者でも共産主義者でもなかった。

その後、適用範囲はどんどん広がり、文化人、宗教者まで、「国民生活の安定を求める」請願をした者など、とにかく、当局が、天皇のもとで国がすることに違和感を持つ者と決めつけた者をこの法律でどんどん検挙した。

そのために、普通の検事より判断力の高いエリートとして「思想検事」制度も作られる。特高の教科書は言う。

「現実に国体を変革した場合には既存の刑法等で罰せられる。本法はもっぱらこの実害を生ずるおそれがある行為を“双葉の内に摘み取る”もの。本法の特色は、そうした目的を持つことを罪とするもの。」

そのための「予防拘禁」と「保護観察」。

「違和感を持つ者」から、さらに「そのおそれがある者」を捕まえるために「予防拘禁制度」をつくり、一旦検挙して、「転向」（もう国に文句をいわない、天皇を積極的に支持すると表明）して釈放された後も監視を続けるために「保護観察制度」もつくった。これらが、日本が、1931年「満州事変」で朝鮮から中国へ侵略を続け、1937年、日中戦争、1941年、日米戦争をしていく上で、民衆を黙らせる強固な下支えになった。

○何で1925年？「守れ！地主と資本家」—その筆頭が天皇

ところで、1925年には、無政府主義者も共産主義者も「死んでいた」。1923年、関東大震災の時に無政府主義者の中心人物大杉栄は殺され、1924年、第一次日本共産党は解散していた。

いないモノを取り締まるのか？

しかし、支配層は怖かった。

ロシア革命が真っ先に届いた「満州」中国人労働者の闘いが怖かった。「大正デモクラシー」で起きてきた労働運動・農民運動に火が付くのが怖かった。彼らが言う「地主と資本家打倒」が怖かった。

当時、天皇は最大の地主であり有数の資本家だった。
—天皇は、1945年の敗戦時で、130万町歩の土地を所有。これは、ほぼ新潟県の総面積、あるいは、東京・神奈川・大阪・香川・佐賀・鳥取の六都府県の合計面積に匹敵する。そして、三井財閥、住友財閥と同額、三菱財閥の倍の有価証券・現金という資本を所有していた。

だから、治安維持法の「国体」は地主を、「私有財産」は資本家を守ることであり、その筆頭である天皇を守ることだった。

その代わりに「国体」と天皇は法律の「表舞台」に出てくる。

明治以来、天皇制のもとで資本主義を発展させてきた日本の支配層には、第一次大戦後、立ち上がってきた民衆に対して、「国体」すなわち天皇を法律上に引っ張りだしてでも体制を整えないと持たないという危機感があった。

「国体」、資本主義体制が揺らいでいた。

○どこが「共謀罪の元祖」？ 死んでいない治安維持法が「地続き」

治安維持法と共謀罪の最大の共通点は「内心の自由の取締」。

法律用語では「罪刑法定主義」を破壊した。

「罪と決められている行為を実際に実行してから罪に問われる」というのが法律の原則。

二つの法律は、これを破壊した。

「考えただけ」でも取り締まられる。

誰かのメールを受け取って反論しないで黙っていたら捕まえられる。

治安維持法は死んでいない。共謀罪へ地続き。

治安維持法は 1945 年に廃止され、同時に特高警察も廃止。

しかし、直後に「思想検事」は公安検事に移行し、特高警察は公安警察として復活。

各自治体では、デモや集会を許可制にしている公安条例が制定された。

他の先進国ではデモと集会に許可は不要だ。

「予防拘禁制度」は、1974 年の刑法全面改訂作業のなかで、「保安処分」という名前で復活し、2003 年の精神障害者の強制入院制度を決めた「心身喪失法（心神喪失者等医療観察法）」で実施。

「保護観察制度」も少年に対する保護処分として復活し、さらに大人に対しても、満期釈放者に対する保護観察制度が検討されている。

「アナーキーな少年や精神障害者」から治安維持法の骨格が復活。

一方、「天皇への忠誠」法制も復活。

1979 年、反対運動を押し切って元号法制化。その後、法制化推進運動は、アベの閣僚の大半が会員である「日本会議」に発展。

—例えば、目黒区役所では反対運動を続けたひとたちがいて、西暦使用が可能だが、警察は元号しか認めない。

1999 年、国旗国歌法制定。国法上は罰則がないといいながら、東京、大阪をはじめとする自治体では、教員・職員が日の丸・君が代に起立・斉唱しなければ、唇の動きまで監視して厳罰。

その上で昨年、3 回も廃案になった後の 4 度目の正直で「オリンピックのテロ対策」に名を借りた共謀罪（「テロ等準備罪」）。

テロ等準備罪なのに「テロ」の定義は法律の条文に一切ない。
そもそも、法律制定の名目は「国際条約であるパレルモ条約の批准」。
しかし、パレルモ条約の目的は、マフィアのマネーロンダリング（資金洗浄）の規制。
「自爆テロ」など対象じゃない。

それなのに、当局が「テロ集団」と勝手に見なした集団の人のメールを受け取って反論しなければその人も捕まるのが共謀罪。

○天皇交代直前の治安維持法と共謀罪

もうひとつの共通点は、天皇交代直前の制定。

昭和天皇裕仁は、治安維持法に守られながら、日中戦争、日米戦争のゴーサインを出した。

平成天皇明仁は、2016年、自身の悲鳴でもある「生前退位を希望するビデオメッセージ」。

日本国憲法では、「退位の希望」を民衆に直接公開することは憲法違反。

しかし、アベは、すぐさま「生前退位」を制度化し、そのうえで、改憲（憲法の改ざん）をしようとしている。

今回は、当時、治安維持法の上にたった天皇制、そして、今、共謀罪の上にたった天皇制について、いろいろトークしてみたい。

以上

<2018-8-26 プチ労 95 まとめ>

参加者：8人（うち1名幼児） 中高年：青年＝4：4 地域：それ以外＝4：4

メニュー：インド風チキンカレー、田村さんの清里高原有機ズッキーニとナスのザブジ

◎「近現代日本 150年の労働者・民衆の闘いの歴史」第七回（レポーターごう）

—第二章（3）治安維持法と「表」に出る天皇の補足

- ・コラム「侵略と侮辱の天皇」（エッセー風なので小見出し付き）
- ・付録：日本最大の地主・資本家—天皇家の財産の推移

明治以来見てきた天皇制について「中間まとめ」。レポーター自身が数年前までは、正直、「関係ないな」と感じていた天皇。どうなるかと思ったが、案外、面白いみんなのトークになったかなと思う。

○公（おおやけ）を与えるが共（ともに）を拒否する天皇

G：江戸時代何でもなかった天皇が明治になって祭り上げられ、同じく、江戸時代何でもなかった民衆が、天皇のおかげで、国民国家の国民という「公（おおやけ）の者」にされた。反面、農民蜂起や自由民権運動は鎮圧され、民衆の自主的な「共同体」づくりは否定される。これって、今、自民党の改憲案が、天皇を元首にし、「公共の福祉」を「公益」に言い換えて、「国民の権利は公益の範囲内」つまり「公益の範囲で君らは国民」としているのと似ている。SEALDSの若者たちは、この「公益」に対して「未来のための公共」と言っているが、今、対置すべきは、「公」に対して「共同」じゃないか。

Mg：SEALDSの言う「公共」は、公がみんなのため、共がみんなでつくる、っていう意味じゃないか。自民党が壊そうとする公のそういう意味を守ろうっていうか、取り戻そうっていうか。

G：なるほど。でも、公って、公家とか、公安とか、最近のえらそうな国家公務員とか、みんなのためというより、国家のためというのが、プンプンしている。

Yi：自民党の「公益」は、公共を言い換えただけじゃなく、「福祉」を切り捨てている。私も福祉分野で働いているが、福祉って、ほっといて与えられるもんじゃなく、行動だと思う。そういう意味で反権力。自民党はそれを切り捨てる。

○侵略と戦争、最大の財閥の天皇

G：朝鮮侵略でさらに天皇制は定着する。労働者・農民は搾取・窮乏にも関わらず「朝鮮人よりはえらい」と言ってくれたことで天皇制を受け入れる。その一方、付録で見ると天皇は最大の地主・財閥になる。

N：「大正デモクラシー」とかやっている民衆は、天皇がそんなにギラギラと最大の金持ちになったことには気づかなかったのかな？

G：元老山形有朋と原敬首相はそれを心配して「財産を少し減らしたら」と進言したが、二人が昭和天皇裕仁の結婚話に反対した事件にかこつけてつぶされた、らしい。

○敗戦後、あっさり「平和と繁栄の象徴」になった天皇

G：アジアで17百万人が死んだ戦争を率いた天皇は、敗戦後すぐできた日本国憲法で、「日本国民の総意に基づき、日本国民統合の象徴」（第1条）。これに対して、「総意と言ったって国民投票したわけじゃない」という意見がある。

Mg：戦争したい改憲派に塩を送ることになるかもだけど、改憲の前に、まず、今の日本国憲法について、国民投票した方がいい。

G：それから「そんなイリュージョンみたいな、超法規的っぽいものに支えられなければ私たちは共同体を維持できないのか？」という疑問がある。

一同：ピッキーン！そんなことはない。

N：「護憲」というのも、この天皇の規定まで含んで言うのは変だ。

○「お家大事」で敗戦を決めた天皇が奪ったもの

G：そもそも、敗戦を決めたのは、沖縄決戦でも、広島・長崎原爆投下でもなく、ソ連が参戦したから。そして唯一の降伏条件は天皇制存続。これは、アニメ「この世界の片隅に」ですずちゃんが玉音放送聞いた直後に「最後のひとりまでじゃなかったんかいね。納得できん。」と叫んだように、「各人が自らの命をかけても護るべきものを見出し、そのために戦うと自主的に決める機会、あるいは個人が自己の命をかけても戦わないと自主的に決意する機会」を天皇は奪った。

Yi：そう。私たちは自分たちで決めなかったんだな。

G：ドイツは、大戦後、何年もかけてから、新たな憲法を定めた。

Yk：少なくとも、ドイツは謝っている。日本は謝ってない。

○アメリカ肝いりで「天皇は無罪」。国民と一体で「戦争の被害者」

Mc：でも、敗戦時に女高生だった母親は、身近に死んだ人とかいないせいか、ずっと「昭和天皇は頑張っている」と言っていた。

G：それに関係するが、アメリカは天皇が統治に使えると考えて、マッカーサーは東京裁判に天皇の「無罪証明書」を書いた。そして天皇が始めた「全国行脚」で、広島では「原爆ドーム」を埋め尽くす民衆が歓呼した。

Yi：天皇も自分たちと同じ被害者ってことになったんだ。

Sk：アメリカは、ソ連に対抗して日本を有力な資本主義の出先にしたくて天皇を無罪にただけなんだな。今、トランプが北朝鮮で金正恩を持ち上げて資本主義にさせようとしていることと同じ。

G：天皇は自らの侵略と戦争の責任については、1975年、敗戦後、ただ一回だけの公式記者会見で、「原子爆弾が投下されたことは遺憾だが、戦争中のことでやむをえない。」「(責任?) そのような文学的なあやのようなことはよくわかりません。」とはぐらかして終わりにした。

○日本最大の財閥から「日米安保村」の要へ

Mc：でも、天皇制は、今は「象徴」でしかない？

G：いや、そうともいえないと思う。昭和天皇は「象徴」になった後も首相の頭越しにマッカーサーに再軍備を求め、沖縄を差し出し、ソ連との冷戦のための安保条約を起動した。

Sk：沖縄を差し出したのが一番頭にくる。

Mg : 安倍首相の祖父岸信介は A 級戦犯だったのになぜ無罪になったんだろう。

G : それも、昭和天皇が再軍備に反対した吉田茂などよりいいとマッカーサーに求めたらしい。そして岸はアメリカ CIA から援助も受けている。

G : そして、ソ連が崩壊して冷戦がなくなり安保条約の存在意義はなくなったのに存続し続けている、今や、年間経済規模 530 兆円といわれる利権の巨大な塊、「日米安保村」になっている。丁度、その時から、平成天皇が就任。彼は平和と繁栄を願っても、それは日本だけの平和と繁栄で、父親が起動した日米安保については何も言わない。敗戦前の最大の財閥天皇は、今や、アベやアソウが親戚であるなどの人的つながりも含めて日米安保村の要になっている。

Yk : でも、コスパを追求するアベノミクスからいえば、金のかかる天皇制はなくすのでは？

G : いや、逆に、利権の塊「日米安保村」を維持する必要コストといえるんじゃないか。

○私らは侮辱のなかに生きている

G : 2012 年、7 万人があつまったさよなら原発集会で大江健三郎はそう言った。「原発事故がなお続く中でなお再稼働を急ぐ政府に自分らが侮辱されている」。

Sk : ほんとにそう思う。

G : そして、原発自体には何も言わないで被災地詣でを繰り返し、「頭が下がる」「涙が出た」という民衆の言葉を報道させる天皇の存在、というのも我々を侮辱するものじゃないか。一方、憲法違反と言われる「退位したい」発言は、一人の生身の人間としての悲鳴じゃないか。

Mg : 「もう体がもたない」という原因の被災地詣でなどで増えている「公務」も憲法からいえば違反。

○自分たちのことを自分たちで決める。公から共へ。

Mg : ただ、今の天皇は個人的には悪いと思わない。

G : そうかもしれない。問題は、「生身のいい人」が悲鳴を上げる天皇制というシステム。

Mg : アベなどのまわりがいいように使う天皇制のシステムに侮辱されていると思う。

Yi : やっぱ、日本の人は、なんか、自分たちで決めてない。

G : そういう社会が瓶だとして、その蓋みたいになっているのが天皇制。

N : 天皇制は気持ち悪い。そして、自分で考えさせないことにもつながってる。なくしたほうがいい。天皇制だけというより、最初に出たように、どんどん気持ち悪いことになっている公（おおやけ）がノシてくるのを止めていろいろと共同を増やすことを通じてじゃないか。

G : そう。特に労働者の共同。

以上

<2018-10-28 プチ労 96 まとめ> (9-30 は、台風直撃で中止)

参加者：6人 (福島椎名さん久々参加) 中高年：青年=4：2 地域：それ以外=4：2

メニュー：韓国スンドウブチゲ、ニラと小エビのジャン、キムチ、若布・ゼンマイ・もやしナムル

◎「近現代日本 150 年の労働者・民衆の闘いの歴史」第八回 (レポーターむぎたさん)
—第二章 (4)「戦後革命期」の原点—1920 年代後半の労働運動・農民運動

「草稿」をよく「解説」してもらって、レポーターが「今に最も近い時代”、”戦後”だった 1920 年代、それが満州侵略と戦争に向かい”戦前”になった」と明快に打ち出したレジメとあらためて整理してくれた年表で、とっても刺激的でわかりやすいレポートと議論になった。

○「戦後」—資本主義の「かりそめ」の安定と「官製デモクラシー」が表裏一体の時代

・第一次大戦の「戦後」、世界は、資本主義がフォード自動車の大量生産など「フォーディズム」で新たな段階に入り、それを維持すべく「国際協調」の流れ。ドイツやアメリカなどで労働運動が抑え込まれ、格差が拡大し労働者にとっては「血塗られた 1920 年代」である反面、資本は「黄金の 1920 年代」を謳歌。

・日本国内では、1923 年の関東大震災に乗じて、「大正デモクラシー」の流れを断ち切り、1924 年から、普通選挙法制定・二大政党制・国際協調外交という「官製デモクラシー」の時代へ。それは同時に、生活様式の欧米化が進み、日本資本主義が「かりそめ」に安定したことと表裏一体。

・これは、今、安倍が「取り戻そう」という、第二次大戦後、朝鮮とベトナム民衆を踏み台にした「高度成長期」から「平成」に至るまでの 55 年体制、自社二大政党の時代、「戦後復興を果たし”総中流化”して欧米に並んで豊かになった」？と言われる時代とよく似ている。

・一方、格差拡大のなかで、盛り上がる共産主義、労働運動、農民運動を抑え込むために、普通選挙法と抱き合わせで、「国体・天皇と資本主義を強固に守る」治安維持法を制定するとともに、企業の現場では、欧米流「フォーディズム」に追いつくために、「日本型労務管理」の原型の導入がはかられた。

・それは、天皇を活用することだった。奴隷のような労働で奪われた「働き甲斐」を「天皇のための誇りある労働」を掲げてすり替えようとした。「天皇制と資本主義の融合」だった。

○教科書に一言も出てこない「評議会」中心に青年 (平均年齢 22.5 歳) が引っ張った労働運動—「戦後革命期」の原点

- ・治安維持法に賛成し教科書にも出てくる労資協調の「労働総同盟（元の友愛会）」に対して1925年に結成された「労働組合評議会（評議会）」を中心に労働者は、「フォーディズム」と「日本型労務管理」と真っ向から闘った。
- ・1920年代後半の大争議は、今も日本の資本主義をリードする共同印刷、ヤマハ（当時日本楽器労組）、キッコマン（当時野田醤油労組）、東芝（当時芝浦製作所労組）、東京都（当時東京市従業員労組）などで闘われ、「血塗られた1920年代」として抑え込まれた欧米労働運動からも喝采を浴びた闘いだっ
- ・それは、東芝の「作業の標準時間を決め、それに応じた時給を支払い休憩時間は支払わない」という徹底した「No Work, No Pay」との闘いに象徴されるように、労働者の「自主性と時間」を支配しようとする「フォーディズム」「労務管理」との闘いだっ
- ・また、東京市従の「汲取りや道路清掃労働の股引き・半纏などの制服改善や風呂場の設置」という要求に見られるように、「フォーディズム」が踏みにじる労働と人間の尊厳の原点を求める、そして、断ち切られた「大正デモクラシー」を具体的に深化させる闘いだっ
- ・それらを引っ張ったのは「労働運動は人間解放の場と感じた」青年たちだっ
- ・職場の日常闘争を重視し、労働者に納得感のある要求をまとめあげていった彼らの闘いを最終的に断ち切ったのは、治安維持法による検挙であり、それを押しすすめる天皇制だっ
- ・しかし、検挙された共産党員でもない青年たちの平均年齢は22.5歳であり、第二次大戦後、一挙に労働運動・農民運動が盛り上がった「戦後革命期」においても40歳前後と、まさに1920年代後半の労働運動は「戦後革命期」の原点だっ

○そして「戦前」になった1920年代—今に最も近い時代

- ・しかし、資本主義の矛盾が1929年世界恐慌を引き起こし、1920年代の「かりそめ」の安定と「国際協調」は終わりを告げる。
- ・その前に、激しい労働運動・農民運動によって、その間の日本国家と資本の「もくろみ」は失敗していた。
- ・1928年治安維持法大検挙によっても、労働運動・農民運動は、収まらないばかりか一層盛り上がるので、直後に治安維持法に「目的遂行罪」を導入。
- ・これは、「社会を良くしようという」目的のために、会合の「弁当を購入」しても「目的遂行罪」に当たるとい共謀罪の「元祖」。これをもって、治安維持法は、民衆一般の弾圧を開始し、「満州」侵略にめどがつく1933年に検挙者はピークをつける。
- ・そして、国家・資本は軍部とともに、国内の矛盾を解消するために、朝鮮に続いて「満州」へと、「外」へ「外」へと「侵略・戦争熱」をあおる。
- ・これに対して、ナチスが台頭するドイツ、ニューディール政策で抑え込もうとするアメリカの労働者とともに、日本の労働者・農民は闘い続け、「戦争か革命か」という階級闘争の時代、1930年代に突入する。
- ・結果は、日中戦争、日米戦争へと突き進んだのが歴史の事実であるが、「戦後」だっ

1920年代、その末期は、「戦前」の入口になった。

・そして、この時期は、「高度成長」が終焉し、「平成」へと移り今に至る現代と「最も近い時代」ともいえる。

次回11月25日プチ労では、もう一度、むぎたさんのレポーターで、今回と同時期、1920年代後半の朝鮮・中国民衆そして在日朝鮮人の歴史的な闘いを見ます。

その上で、来年1月以降、1930年代、「戦争の時代」として、現代の「写し鏡」でもある「満州」侵略を支えた「時代の閉塞感」、その一方で、「革命の時代」として、いかに労働者・農民が「労働と人間の尊厳」を求めて、「戦後革命期」への道程を掘り下げていったかを見ていきたい。

以上

<2018-11-25 プチ労 97 まとめ>

参加者：6人（Yさん初参加） 中高年：青年=4：2 地域：それ以外=5：1

メニュー：ハンガリーグーヤッシュ（牛肉のパプリカ煮込み）

◎「近現代日本150年の労働者・民衆の闘いの歴史」第九回（レポーターむぎたさん）
—第二章（5）朝鮮・中国の民族と階級の解放闘争

レポーターが「担当してとても面白かった」と言ってくれた1920年代後半の朝鮮・中国民衆の民族解放・階級解放の闘争と在日朝鮮人の闘い。

この時期、朝鮮では、日本の激しい弾圧のなかで、世界でも有名になった元山（ウオンサン）労働者のゼネスト、不二興業大小作争議などが激しく闘われ、民族解放の統一戦線「新幹会（シンガンフェ）」成立の動力となった。

さらに、中国では、上海ゼネスト、香港・広東ゼネストなど数百万人単位の労働者の蜂起と1千万人の農民同盟の組織など、第二次大戦後の中国革命の一手前まで迫った。

一方、在日朝鮮人の運動は、母国の労働運動を超える勢いを示したものの、日本人労働運動にも根強い差別感のなかで、その発展には大きな課題を残した。

こうした歴史の流れを踏まえつつ、レポーターの清新な問題提起で、青年Yさんも初参加するなか、議論が盛り上がった。

当時と同様の低賃金労働力使い捨てでしかない「移民政策」が強行採決された現代、あらためて問い直すべき、民族とは、国家とは、差別とは、階級の解放との関連とは。。。

同時に、来年からの1930年代の歴史を見ていく上で、貴重な入口をつくってくれた。

●民族と国家

R (レポーター) : あえて、定式のようなものを考えてみた。

ひとつは、単一民族といわれる国。日本は、その国益≒資本の利益のための侵略に「民族の誇り」が利用された。

一方、中国は多民族の国で、歴史的に国家権力はいろいろ変わり、パールバックが「大地」で描いた「誰が権力者でも同じ」という農民のように民衆が権力に対して冷めている。だから、1920年代、自存自衛のために労働者・農民は階級として団結した。

それは、当然、外国資本に対する多民族の解放であり階級の解放と統一された闘争となった。

しかし、今の中国のように権力が「統一」され資本が集中すると侵略も行う。

さらに、欧州は、「白人でなければ人でない」という民族意識で侵略を行い、国家はそれを助ける組織になっているような気がする。

今は、国家が揺らいで、あらためて、白人意識が強調され、日本と同じように、白人の「単一民族国家」として極右が進出している？

M : アメリカも中国のような「多民族国家」かな？

G : そうも見えるが、1930年代では、ドイツとアメリカも見るが、そこで台頭するナチスのユダヤ人迫害の法的モデルはアメリカの人種法制だったともいわれ、今のトランプもそうだが、どちらかといえば「欧州白人国家」に近いのでは。

●差別を乗り越えるとは

R : 在日朝鮮人は「差別と虐待という二重の桎梏」にいて団結して闘わなければ生きていけなかったが、団結するほど周囲から脅威に見られ差別が進むというジレンマがあった。じゃあ被差別者はどう闘うのかというより、差別する側が変わるしかない？

そこで、自分が好きな大相撲にはモンゴル人力士の差別があるが、横綱白鵬は「自分の国を愛せなければ他の国も愛せないのでは」と言った。逆に、自分の国で閉塞感や孤独感があると他国への侵略へとつながる「愛国心」になるのか。

M : ところで、最近、「和解のために」という韓国の人が書いている本を紹介されたんだが、どこかで、日本の侵略についての「手打ち」のようなことがありうるのだろうか？

U : いや、とにかく日本は一切「謝っていない」。それから自分は、どんな「愛国心」もないと思う。「遠い世界に」という歌は好きだが、最後の「これが日本だ、私の国だ」はいやだ。「私の地球だ」にすべき。

G : 1930年代の在日朝鮮人運動をもう少し詳しく見ていて、朝鮮人の民族解放の思いは「自分はいったい何者だ」という、「自己のアイデンティティを求めるナショナリズム」だという人がいて、それに対して、日本のは「侵略のナショナリズム」になるのか。「自分の国を愛する」ことも行き過ぎれば侵略になる。

一方、福岡刑務所で生体実験の材料にされて殺された詩人尹東柱（ユンドンジュ）が、その生涯を描いた映画のなかで、特高の取調官に言うように「あなた方日本人には民族としての劣等感がある」のか。

R：たしかに、映画「GO」で主人公の在日朝鮮人青年が「俺は何者か」という。何者かは三つあると思う。日本人、朝鮮人、そして俺は俺。この最後にみんななることが連帯への道か。

●民族の解放と階級の解放

R：国家と結びつく危険性があるから、民族解放は、あくまで階級の解放のために「利用」するにとどめるべきかなと思う。民衆は、国家と結びつくのではなくて、まさに足元の、現実の、身の回りの集団として立ち上がっていく必要がある。

Y：国家と結びつく危険ということからいえば、民族と階級は「非和解」なのかな。

G：ただ、マルクスが「他民族を圧迫する民族は自らも自由でありえない」と言ったように、まずは、民族解放の要求と運動によく向き合わなければならないんじゃないか。

階級闘争との関係では、1930年代でも、日本の労働運動指導者は、労働運動の主力となった在日朝鮮人の民族としての要求に向き合うことをおろそかにして「階級闘争」を頭でっかちに優先させたといえる。

また、朝鮮「新幹会（シンガフエ）」は、その対立から1930年代に入り数年で解散する。これも今に問いかけるものがあると思う。

N：差別の問題でも、「当事者以外は口出すな」という向きもあるが、そうではなくて、差別する側も一緒になって状況に「向き合う」べき。

それは、単に見守るとか寄り添うということではなく、共通の敵である国家・資本に対してともに闘うこと。

以上